

令和8年3月10日

令和7年度学校経営報告書

八王子市立中山小学校

校長 鈴木 淳

1 令和7年度の重点目標

- (1) 中山中学校グループにおける小中一貫教育の推進
- (2) 楽しく学ぶ子ども ～確かな学力の育成～
- (3) 楽しく遊ぶ子ども ～安心して過ごせる学校生活～
- (4) 楽しく鍛える子ども ～体育間の授業や日常の体育的活動の充実、食育の創意工夫～
- (5) 地域社会と深く関わる教育活動の推進 ～田んぼプロジェクト、ビオトーププロジェクト～

2 重点目標と具体的な方策、検証方法・評価

	今年度の取組目標	取組目標の達成に向けた方策	成果の検証
中山中学校グループにおける小中一貫教育の推進	○義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組を推進する。	・部活動見学(夏休み)、小学6年生の中学校部活動への参加(2学期以降)、中学生の小学校での職場体験(2学期)、中学3年生が教師役として小学校に出向いて行う「リトルティーチャー」活動(3学期)、小学6年生の中学校授業体験・部活動見学(3学期)に取組む。 ・小中合同での漢字検定(1学期・2学期)、授業規律の共通理解・共通実践、授業交流(算数・数学)・研究授業(学期に1回)、ICT・1人1台の学習用端末の活用研究に取組む。 ・小中合同の特別支援部会を学期に1回行い、校内体制の整備、要配慮児童	●小学6年生の中学校授業体験(3学期)を行い、中学校進学に向けて見通しをもたせることができた。 ▲中学校部活動見学(3学期)は、降雪のため実施できなかった。リトルティーチャーは例年都立高校の入試の日に行っていたが、今年度は土曜日と重なり実施できなかった。 ●漢字検定は、それぞれの学校で実施した。小中一貫教育の日の取組を中心に、授業規律の共通理解・共通実践、授業交流(算数・数学)・研究授業(学期に1回)、ICT・1人1台の学習用端末の活用研究に取組んだ。 ●小中合同の特別支援部会、生活指導部会の取組は計画

		<p>生徒への対応、合理的配慮の必要な児童生徒の情報交換・情報共有を行う。</p> <p>また、小中合同の生活指導部会を学期に1回行い、入学を前に新入生情報の引継を3学期に行う。</p> <p>・小中あいさつ運動(毎学期)、児童会・生徒会交流・委員会交流、地域清掃クリーン作戦(2学期)、地域のことを学ぶ日(2学期)、地域と連携した三校合同での「門松づくり」(2学期)を行う。</p>	<p>通り行った。</p> <p>●それぞれ計画どおり実施することができた。小中合同のあいさつ運動は、小学生が中学校の校門に立ち、中学生が小学校の校門に立つなど、4月、9月、1月に実施した。</p>
<p>楽しく学ぶ子どもに確かな学力の育成</p>	<p>○個に応じた指導を通し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにする。</p>	<p>・八王子市学力定着度調査の結果を基に、「学力の定着・向上に向けた取組計画」を策定・実施することで授業改善を行う。</p> <p>・全学年算数の少人数指導、習熟度別指導を充実させる。</p> <p>・授業での個に応じた指導、算数科の習熟度別指導を充実させる。また、朝の時間や家庭学習でも東京ベーシック・ドリルや八王子ベーシック・ドリル、ドリル型学習コンテンツを活用し、「はちおうじっ子ミニマム」を確実に解くことができるようにすることをめざす。</p> <p>・「はちおうじっ子ミニマム」等の活用を通して、社会生活を営む上で身に付けるべき基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために、家庭との連携を図りながら1人1台の学習用端末の有効利用を図る。</p>	<p>●八王子市学力定着度調査の結果を基に、「学力定着・向上に向けた取組計画」を策定・実施し授業改善を推進した。</p> <p>●1・2年は少人数指導、3年以上は習熟度別指導を実施。校内研究を進めながら指導を充実させることができた。</p> <p>●教材や指導方法の工夫、学習用端末の活用等を通して、授業での個に応じた指導、算数科の習熟度別指導を充実させることができた。</p> <p>●朝の時間や家庭学習でも東京ベーシック・ドリルや八王子ベーシック・ドリル、ドリル型学習コンテンツを活用し、「はちおうじっ子ミニマム」を確実に解くことができるように努めた。</p>

<p>○主体的・対話的で深い学びの実践を通して、思考力、判断力、表現力等を育む。</p>	<p>・「聞く・考える・伝える」の言語活動を充実させるために、伝え合い活動や話し合い活動を積極的に取り入れる。また、スピーチ活動などに取り組ませることで、さらに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。</p> <p>・令和6年度までの校内研究を踏まえ、算数の授業は、基本的には以下のように、年間を通して行うようにする。 「児童主体でめあての設定」、「1時間の流れの基本モデル」①問題把握→②自力解決・スパイタイム・ヒントタイム→③集団検討→④まとめ→⑤適用問題→⑥振り返り) 「単元末の振り返りの工夫（3年生以上）」</p> <p>・児童の思考を深め、広げる授業を目指し校内研究する。</p> <p>・学級担任は年2回の授業観察うち、1回を算数の授業とする。他の教員の授業を参観する機会を設定する。また、授業実践を記録に残し、蓄積する。</p>	<p>●グループやペアでの伝え合い活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、また、スピーチ活動などに取り組ませ、思考力、判断力、表現力等の育成を図った。</p> <p>●令和6年度までの校内研究を踏まえ、算数の授業は、基本的には以下のように、年間を通して行うようにした。 「児童主体でめあての設定」、「1時間の流れの基本モデル」①問題把握→②自力解決・スパイタイム・ヒントタイム→③集団検討→④まとめ→⑤適用問題→⑥振り返り) 「単元末の振り返りの工夫（3年生以上）」</p> <p>●児童の思考を深め、広げる授業をめざし校内研究を推進した。</p> <p>●学級担任は年2回の授業観察うち、1回を算数の授業とし、他の教員の授業を参観する機会を設定した。また、授業実践の記録をデータで残り閲覧できるようにした。</p>
<p>○子どもが主体的に学習に取り組む態度を育む。</p>	<p>・学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。</p>	<p>●各教科等の学習の中で、見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることで、次への学習意欲につながった。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを日常生活に生かせるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習したことを日常生活に生かすことを意識させるように指導方法を工夫した。
楽しく遊ぶ子ども 安心して過ごせる学校生活	○異学年を含む学校生活全体の中で豊かな人間関係を築き、安心して過ごせる学校生活を保障する。	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年と合同で行う活動を通して広がりや深まりのある人間関係を築く。 【主なたてわり活動】 ・全校遠足（5月） ・運動会のたてわり種目（10月） ・月1回のたてわり遊び ・さつまいもの栽培から収穫・焼きいも祭り（11月） ・日々の清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●年間を通して隣接学年活動やたてわり活動等の異学年を含む学校全体の活動を計画通り行うことができた。異学年との交流を深め、豊かな人間関係を築くことにつながった。
	○気持ちのよいあいさつができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに関する目標を学年ごとに設定し、学期ごとに振り返りをする。 ・学期ごとにあいさつの標語を募集しあいさつに対する意識を高める。 ・青少年対策中山地区委員会と中山中学校との連携し、「あいさつ運動」を実施する。 ・児童会のあいさつに関する取組を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「あいさつをしよう」を年間重点生活目標に設定し、目標を学年ごとに設定し、指導を継続したが、まだできるようになってはいない。来年度も引き続き、年間重点目標として設定する。 ▲あいさつの標語は、作ることが難しく、児童全体のあいさつに対する意欲を高めることにはつながらなかった。 ●青少年対策中山地区委員会と中山中学校との連携を重視しながら、「あいさつ運動」を実施した。その時期に合わせ、中山中学校の正門付近に児童会の児童が立ち、あいさつ運動を展開した。
	○いじめ防止の取組と不登校児童への支援を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対して法に則った適切な対応をするため、週1時間、全教員参加の「学校いじめ対策委員会」を開催する。また、記録整理、情報共有、関係児童の聞き取り等の時間を確保し、必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめ・不登校への適切な対応をするため、毎週金曜日に全教員参加の学校いじめ対策委員会を開催した。また、記録整理、情報共有、関

		<p>に応じて関係諸機関と連携して対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に向けた「学校いじめ対策委員会」を中心とした校内体制を確立し、学期1回のアンケート調査に基づいた対応、情報収集・共有、対応方針の協議等を行い、未然防止、早期発見、早期対応に努める。 ・不登校児童への対応及び不登校対策として、個票システム、SC や SSW、hyper-QU（4年生以上）等アンケート調査を活用する。 ・新たに登校支援委員会を設置する。登校支援コーディネーターが中心となり、保護者や関係諸機関との連携、別室の活用等の支援策を策定し、社会的自立に向けて支援をできるようにする。 	<p>係児童の聞き取り等の時間を確保し、必要に応じて関係諸機関と連携して対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いじめ防止に向けた「学校いじめ対策委員会」を中心とした校内体制を確立した。学期1回のアンケート調査に基づいた対応、情報収集・共有、対応方針の協議等を行い、保護者への連絡も確実に行うことができた。 ●不登校児童への対応及び不登校対策として、個票システム、SC や SSW、QU（4年生以上）等アンケート調査を活用した。SCによる分析を児童のいじめにかかわる指導に活かすことができた。 ●登校支援委員会を設置した。登校支援コーディネーターが中心となり、保護者や関係諸機関との連携、別室の活用等の支援策を策定した。
<p>楽しく鍛える子どもから日常の体育的活動や食育の創意工夫</p>	<p>○体育科の授業や日常の体育的活動での創意工夫で、達成感を味わわせながら体力の向上をさらに推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業は、基本的には低・中・高学年が合同で行うようにする。 ・日常の体育的活動として、5月に短縄集会、1月にマラソン集会、3月に長縄集会を行う。それぞれの集会に向けて、休み時間等に継続的に練習できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育の授業は、水泳指導や運動会に向けての指導以外にも基本的には低・中・高学年が合同で行った。 ●日常の体育的活動として、5月に短縄集会、12月にマラソン集会、2月に長縄集会を行った。それぞれの集会に向けて、児童は休み時間等に意欲的に練習していた。

	<p>○育て収穫し食すまでの体験学習や各教科等での食育に関する学習、学校給食との関わりの中で食の大切さが分かる児童を育てる。</p>	<p>・1・2年生は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間に、年間を通して野菜を育てる活動を位置付ける。地域の方々の力を積極的に活かし、食の大切さが分かる児童を育成する。</p>	<p>●1・2年生は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間に、年間を通して野菜を育てる活動を計画的に実施した。猛暑の影響で、夏野菜の栽培は草取りなどの作業ができないときがあった。野菜の苗も入手しにくくなっているが、今後も継続していく。</p>
<p>地域社会と深く関わる教育活動の推進</p>	<p>○郷土学習を推進するために、八王子や中山の豊かな自然環境・地域の人々の暮らし・伝統・文化などの体系的なカリキュラムを取り入れ、郷土学習を実践する。</p>	<p>・「地域のことを学ぶ日」に全校児童で地域の自然について学習する。</p> <p>・中山の自然を生かしたビオトープを保護者、地域人材と共に発展させる。</p> <p>・田んぼプロジェクトとして、おやじの会、地域人材と連携しながら、水田作りを推進する。</p> <p>・5年生が水稻を栽培する。収穫後も、餅つき等の活動を充実させる。</p>	<p>●5月24日の道徳授業地区公開講座において、ゲストティーチャーによる講演を実施した。</p> <p>●桜美林大学と連携し、ビオトープの環境を整備し、学習に活用できるようにした。大学生がビオトープ周辺の植物について調査した結果をまとめ、1月末に実施した作品展で発表した。</p> <p>●田んぼプロジェクトとして、おやじの会、地域人材と連携しながら、6月中旬には水田を完成させることができた。</p> <p>●地域人材を講師とした体験活動として、5年生が水稻の栽培を行った。不耕起栽培も実験的に行い、それらの違いを学習することもできた。収穫後も、餅つきを行い、他学年も体験することができた。</p>